第3回スタッフ育成・フォローアップ研修の様子

2018年1月20日(土)、21日(日)9:00~18:00 於:東京医科歯科大学

◆研修内容(18時間、内6時間は訓練・演習研修)

- 1) 災害への理解 (180分)
- 2) 栄養アセスメント (360分)
- 3) コミュニケーションスキル (180 分)
- 4) 臨機応変の対能力(180分)
- 5) 応急処置・救急 (180 分)

1日目

1. 被災地の医療活動

講師:厚生労働省大臣官房厚生科学科健康危機管理・災害対策室 高橋礼子先生



2. DMATの看護活動

講師:(独)国立病院機構災害医療センター DMAT 事務局災害医療管理係 千島佳也子先生



3. 災害食、災害の対応、災害食試食&ディスカッション

講師:日本災害食学会新潟大学大学院客員教授別府茂先生・ホリカフーズ(株)



4. 災害時の応急処置・救命救急

講師:本郷消防署(救命救急インストラクター)

※消防署へ行く時も避難所と見立ててグループ行動していただき、目印となる建物の確認をしていただいています。



5. 災害時の食事摂取基準と災害時要配慮者

講師:(独) 国立健康・栄養研究所笠岡(坪山) 宜代先生



1. ネパール大地震の災害海外支援に参加して

講師:薬樹(株)保険薬局事業部店舗運営支援本部 健ナビ推進グループ栄養チ-ム仲野智子先生



2. 行政の災害時のしくみ

講師:健康生きがい部上板橋健康福祉センター保健福祉係 栗原美穂子先生



3. 栄養アセスメント

講師:島田療育センター栄養管理部 NST 室室長 小林弘治先生

※ 残念ながら写真を撮り忘れてしまいました。

4. 災害時における食事栄養支援

講師: スタジオ WA・ON 主宰代表飯田和子先生



5. 災害時対応 (グループワーク)

講師: JDA-DAT/TOKYO 委員



6. 災害地時の臨機応変の対応(被災者の心理社会的について)

講師:日本栄養士会理事・東京都栄養士会会長駒沢女子大学教授 西村一弘先生



7. 日本栄養士会災害時体制と活動報告

講師:日本栄養士会常務理事 下浦佳之先生



8. 質疑応答 証書授与閉会





参加者にアンケートをお願いし、いろいろな意見をいただきました アンケート結果は一部抜粋にはなりますが、参考にしていただければと思います

参加者 27名

部会別 医療 11 名、福祉 6 名、研究 2 名、 地域活動 2 名、勤労者支援 2 名、公衆衛生 2 名、 学校 0 名、非会員 3 名

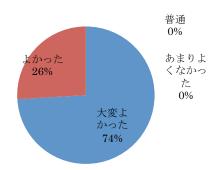
性別 男性2名、女性25名

年齡別

20代3名、30代7名、40代12名、50代5名

1. 研修会は、全体的にいかがでしたか。

27 名回答



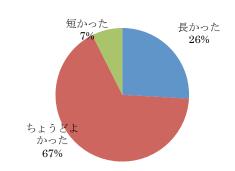


20代, 3名

30代, 7名

2. 講演者の時間(長さ)はいかがでしたか 27名回答

50代,5名



3. 研修内容は、参考になりましたか。(以下、ご自由にお書きください)

・実際に活動されている先生方の話を伺え、とても勉強になった。災害のことは自分なりに勉強してきたつもりだったが、体験された話を伺ったことで、災害時に必要なこと、準備がいかに大切かを学ぶことが出来た。普段の生活、職場でも今回の研修は活かせることがたくさんあると思った。職場の方にも活動を広めていきたいと思った。グループワークは他の方の考えを伺うことができてとても勉強になり、たくさんの情報交換をすることが出来た。

- ・災害の実態を知ることができた。栄養士の出来ることは幅広く、被災地に必要だと感じた。地域で受ける 防災講座とは異なり、支援者としての講座で充実した内容だった。消防署に行ったり、クッキングを途中で はさむことで飽きることなく長時間学べた。食事を通して被災者の気持ちに寄り添うために心のケアについ ても学びたい。
- ・どの項目も勉強になった。知識があるとないのとではかなり差が出ると思うので今回参加してとてもよかった。 たいへん参考になった。
- ・JDA-DATとは、活動内容がよくわかった。何をすべきかスタッフの役割、気をつけることなど理解ができた。具体例で多数の経験内容を伺って、現地での活動内容が少しイメージできた。災害食を作って実際に食べてみるということも初めてで、実践的な研修内容だったので充実したものだった。
- ・栄養士が災害支援に行って何ができるのかなと思っていて、保健師とかの方が役に立つかと思っていたが 活動できることがわかった。東日本大震災の時も手を挙げればよかったと思った。
- ・行政の方や海外派遣経験のある方など、様々な立場からの講演を拝聴することができてよかった。
- ・JDA-DAT に栄養管理について基準(災害時)があることすら知らなかったので勉強になった。
- ・具体的なレシピ、数値などがあり、そういう具体的なものが知りたいのでとてもためになった。
- ・2日間の濃厚なカリキュラムでとても参考になった。・講習、体験が混ざっていて受けやすかった。
- ・普段献立作成や診療の仕事をしていなくても特殊栄養ステーションの仕分けやデータ分析、外国人の対応 など自分にできそうなこともあると思うことができてよかった。
- ・災害支援のチームの研修なので、災害支援、被災地に関わる講義を充実させてほしい。

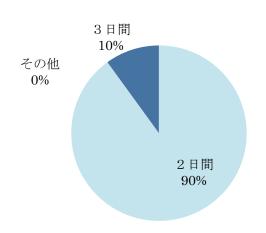
4. JDA-DATへのご意見、ご要望があれば、ご自由にお書きください。

- ・今まで支援に入った方々の話もあり役にたった。現地にすぐに行けるためにしておく準備をマニュアル化 してもらいたい。今までの事例をもっと知りたいので事例集がほしい。海外へも目を向けていくことは、国 内の栄養士の地位を上げるのでよいと思った。フォローアップ研修を受けたい。
- ・熊本地震でボランティアに行った。行政に問い合わせたら栄養士は必要ないと言われた。しかし、避難所 にいる親族は衛生管理が雑で、学生や栄養の専門でない人が食事を配っているため危ないと聞いていた。家 屋の片付けしか出来なかった当時の経験から、今後の活動に活かしたい。
- ・ボランティアの定義やボランティア活動における知識や留意点を知るべきだと思う。自身はボランティア 活動をしたことがないが、業務の中でボランティア団体と関わりもあり心構えや認識しておくべきことが多

くあると感じた。今回の研修でスタッフになることはできるが、常に現状の災害の対応への知識等を含めた 研修を受けられる体制を整えて頂ければと思う。スタッフになったらリーダーでなくても何年かに1回は講 習を受けるなどの制度が必要なのかと思う。

- ・どの期に何が必要なのか分かれば事前準備ができると思う。緊急時、悪急性期、後方支援に分けて、最低限の持ち物リストを作ってほしい。どの時期に対応可能化のリストを作ると効率的に人員が集められると思う。
- ・災害食の試食やパッククッキングの体験はよかった。もう少し実習があった方がいいと思った。正直なところ、2日間の研修を受けただけで支援ができる自信がないので、スタッフ研修②として、聞き取り、アセスメントの実習やケーススタディ(心理的ショックに配慮した答え方など)があるとよいと思った。
- ・普段の仕事は管理栄養士として働いていない人でも後方支援でできることがあると知って自分にもできる ことがあるかもしれないと思った。
- ・ 被災地に行ってからの心構えとして大切だと思うので、心理面的な研修会を多く学べる機会を増やして ほしい。また、フォローアップだけでなく、東京都栄養士会の研究会の中にそれらの内容を入れてもら えると JDA-DAT のメンバーでない栄養士にも関心を持ってもらえると思う。

5.2日間、3日間どの日程がよいか。



2 日間はびっしりのタイムスケジュールで少々疲れたが、3 日間 になるよりも勤務のことを考えると受けやすいと思う。

ハードスケジュールではあるが、各講義の時間が 60 分程度で全体的には長いが集中が切れない程度であった。3 日間だと間延びしてしまう気がするので私自身は2日間でよいと思う。

3日間より2日間の方がよいと思ったが、時間が長くなったとしてもメリハリのために休憩時間は必要かと感じた。